PART1　2つの給ふ・謙譲の補助動詞給ふの特徴

★補助動詞　2つの「給ふ」

敬語の種類	活用の種類	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
	四段活用						
	下二段活用						

●「給へ」の場合→「　　」（=活用形）確認。

（例）

思ひ**給へ**ず。

渡らせ**給へ**れば、…

「忠度。」と名のり**給へ**ば、…

★謙譲の補助動詞「給ふ」の特徴

①「　　　」・「　　　」で使用。

（例）
「忠度」と名のり**給へ**ば、…
「この際まで立ち寄らせ**給へ**。」とのたまへば、…

②「　　」・「　　」・「　　」・「　　」・「　　」にしか付かない。

（例）
「この際まで立ち寄らせ**給へ**。」とのたまへば、…
「～聞き**たまへ**て…」

③主語は「　　」（＝　　　　）

④訳は「～　　」・（「～　　　　」）

⑤敬意の方向＝聞き手に対する敬意

第28講 PART1 確認問題

① 「たまふ」に関する説明文の空欄［A］～［F］に入る語として最も適当なものの組み合わせを、次の中から選べ。

「たまふ」は、四段活用の場合は［A］の意味で、下二段活用の場合は［B］の意味となる。四段活用の場合は動詞としても［C］としても自由に用い、地の文、［D］ともに無関係に用いる。下二段活用の場合は多くは「思ふ」「見る」「聞く」に続く［E］としての用法にほぼ限られ、［F］に集中して用いられる。

ア　謙譲・謙譲・助動詞・会話文・補助動詞・地の文
イ　尊敬・謙譲・補助動詞・会話文・補助動詞・会話文
ウ　尊敬・謙譲・助動詞・会話文・補助動詞・地の文
エ　謙譲・謙譲・助動詞・会話文・補助動詞・会話文
オ　尊敬・謙譲・補助動詞・会話文・助動詞・会話文
カ　謙譲・尊敬・補助動詞・会話文・補助動詞・地の文

② 空欄にあてはまる語として最も適当なものを、次の中から選べ。

（私は）去(い)ぬる朔日(ついたち)の日の夢に、さま異(こと)なるものの告(つ)げ知らすることはべりしかば、信じ難(がた)きことと思ひ［　　］しかど、…

ア　給ひ　　イ　給へ　　ウ　給はり　　エ　給はれ

③ 傍線部が謙譲の補助動詞であるものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　殿、「とく御紐とかせ給へ。事破れ侍りぬべし」とおほせられ…

イ　「…、この見たまふるわたりより、情（なさけ）なくうたてあることをなむ、…」とて、涙ぐみたり。

ウ　「よし、異時（ことどき）は知らず、こよひはよめ。」など責めたまへど、…

エ　「左近（さこん）の中将、みな着きたまふ。」と言へど、…

④ 傍線部の敬語の種類として最も適当なものを、次の中から選べ。

涙ぐませたまへる、…

ア　尊敬語　　イ　謙譲語　　ウ　丁寧語

⑤ 傍線部のうち、補助動詞でないものを次の中から選べ。

皇子（みこ）の君、千日いやしき匠らともろともに同じ所に隠れゐ（ア）給ひて、かしこき玉の枝作らせ（イ）給ひて、官（つかさ）も（ウ）給はんとおほせ（エ）給ひき。これをこの頃按（あん）ずるに、御つかひとおはしますべきかぐや姫の要じ（オ）給ふべきなりけり、とうけたまはりて、…

第28講　PART1　確認問題　解答

〔解説〕

① 四段活用の「たまふ」が尊敬。四段活用の「たまふ」は本動詞と補助動詞がある。下二段活用の「たまふ」が謙譲。こちらはほとんどが補助動詞で、主に会話文中や手紙文中で使用される。よって、正解はイ。

② 会話文であり、直前に認識を表す動詞「思ひ」があることから、空欄には謙譲の補助動詞「給ふ」が入る。また、直後にある過去の助動詞「しか」（＝終止形「き」）は連用形接続なので、下二段活用動詞「給ふ」の連用形「給へ」が正解。よって、イが正解。

③ イについて、直後の名詞「わたり」にかかっていることから、連体形。「たまふ」の連体形が「たまふる」となるのは、下二段活用動詞で、謙譲の意味。よって、イが正解。

④ 助動詞＋「たまへ」なので補助動詞。「思ふ・覚ゆ・見る・聞く・知る」以外に付いていることから尊敬である。よって、アが正解。

⑤ 用言に接続しているア・イ・エ・オは尊敬の補助動詞。未然形に接続する意志の助動詞「ん」に連なっているウ「給は（終止形「給ふ」）」が尊敬の本動詞である。よって、ウが正解。

〔解答〕

① イ　② イ　③ イ　④ ア　⑤ ウ